

「ふつう」って何？

奈良県 香芝市立香芝西中学校 2年

卯野 陽葉里

私は、日常の会話の中で疑問を感じる言葉があります。それは「ふつう」という言葉です。私はいつも「ふつう」という言葉を聞くと「ふつうって何？」と思います。みなさんはどう思いますか。

私は「ふつう」というものはこの世に存在しないのではないかと考えています。それと同時にこの言葉は人それぞれの個性や考えを否定してしまうものでもあると思うのです。だけど実際に「ふつう」という言葉は存在します。私も会話の中で使うこともあります。でも私達が使う「ふつう」とは自分の中でのことです。例えば、日本では家の中でくつをはかないことがふつうです。一方、外国では家の中でくつをはいたままがふつうという国もあります。また、日本では子どもが学校に行くのがふつうです。一方、子どものうちから仕事をするのがふつうという国もあります。このように自分の中での「ふつう」は国やそこに住む人々によってそれぞれなのです。人はみな自分だけの「ふつう」をもっています。今まで生きてきた経験や考えなどから自分だけの「ふつう」というルールを決めていくのです。全く同じ経験をして同じ考えをもった人はいないでしょう。だから人それぞれに「ふつう」はあるのだと思います。自分にとってはふつうでも相手にとっては違うということもたくさんあるでしょう。つまり「ふつう」とは自分の中だけで通用し、世の中では通用しない、存在しない言葉だと私は思います。

この「ふつう」という言葉。場合によっては個性や考えを否定してしまうこともあると思います。例えば、世の中には自分の体に不自由な所がある方もいらっしゃいます。この違いをお互いが「相手はふつうでないな」と考えてしまったら相手を否定すると同時に傷つけてしまうと思います。実際に私は、片足に義足をつけて生活するある少女が、周りから「あなたはふつうじゃないんだから」と言われひどく悲しみ、傷ついたという話をテレビで観ました。このとき周りの人々は自分だけの「ふつう」で相手との違いを判断し、彼女を傷つけてしまいました。

また、日常の会話の中でも結構多く「ふつう」という言葉を聞きます。例えば、Aさんの行動がBさんやCさんの反感をかかったときBさんやCさんが「もし自分がAさんだったらふつうはあんなことしないよ」などと言っているのを私はよく聞きます。だけどこれは、「自分だったら」の話です。AさんはAさんなりの考えで行動したのでしょう。つまり、BさんとCさんは、それぞれの「ふつう」を押しつけることによってAさんの行動を否定してしまっています。行動を否定するということはその人の考えを、その人の「ふつう」を否定してしまっています。それはとても残念なことです。だから「ふつう」という言葉を簡単に使ってはいけないというのが私の考えです。「ふつう」という言葉が人を傷つけたり否定してしまうということを忘れてはいけないと思います。

このように「ふつう」とは非常に難しい言葉であることが分かります。あるときは人それぞれの独自のルール、自分だけの考え、つまり個性をあらわします。またあるときは相手の個性や考えを否定してしまう言葉にもなります。しかし、これだけ難しい言葉なのに日常的に簡単に使われている言葉でもあります。私も使ったことがあるし、みなさんも使ったことがあるのではないのでしょうか。

「ふつう」を自分の中でもつことは悪いことではないと思います。自分なりに考えてつくった自分だけのルールだからです。だから、そんなルールを大切に、上手に使えるようになりたいです。そして、「ふつう」という言葉で誰かを傷つけることのないようにしたいです。また私の周りで「ふつう」という言葉が使われていてもそんな「ふつう」にとらわれないように、そして、お互いの違いを理解して自分の「ふつう」を押しつけることのないように生活していこうと思います。

この世の中に誰一人、同じ人はいません。私は、生きている人全ての個性が輝き、一人一人が自分だけの人生を堂々と歩んでいけるような世の中になってほしいと思っています。だから、そんな世の中に「ふつう」はいらないと思うのです。みなさんも一度、「ふつうって何なのか」考えてほしいと思います。